2025年度　群馬県立近代美術館年間予定表

休館日

2025 4

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

■企画展示　■コレクション展示　■公募展　■特別展示

＊所蔵表記のない作品は群馬県立近代美術館蔵

展示室1

4/19～6/8
20世紀イタリアの巨匠
マリノ・マリーニ
新収蔵の版画作品を中心に

マリノ・マリーニ
《奇跡》
1970年

7/19～8/24
群馬青年ビエンナーレ2025

群馬青年ビエンナーレ2021
展示風景

9/13～11/9
響きあう絵画
宮城県美術館コレクション
カンディンスキー、高橋由一から具体まで

ヴァシリー・カンディンスキー
《「E.R.キャンベルのための壁画No.4」の習作
（カーニバル・冬）》
1914年　宮城県美術館蔵

長谷川潾二郎
《猫》
1966年　洲之内コレクション
宮城県美術館蔵

11/21～11/30
第76回
群馬県展
美術

12/6～12/16
第76回
群馬県展
書道
（12/11展示替休館）

展示室2

～4/6
日本と西洋の近代美術 III

4/19～7/6
日本と西洋の近代美術 I

7/19～8/31
日本と西洋の近代美術 II

パブロ・ピカソ
《ゲルニカ（タピスリ）》

9/13～12/16
日本と西洋の近代美術 III

クロード・モネ
《ジュフォス、夕方の印象》
群馬県企業局寄託作品

展示室3

～4/6
現代の美術

4/19～7/6
現代の美術 I

岡田謙三
《ダブル・ランドスケープ》

7/19～8/31
新収蔵作品紹介①
鶴岡政男

鶴岡政男
《三匹の蟇》

9/13～11/9
現代の美術 II

11/21～11/30
第76回
群馬県展
美術

12/6～12/16
第76回
群馬県展
書道
（12/11展示替休館）

展示室4

～4/6
西洋版画の楽しみ

4/19～7/6
人のすがた

分部順治
《座湯》

7/19～8/31
戦争と美術　アンソロジー

9/13～12/16
水野 暁　視覚の層 | 絵画の層（仮）

水野暁
《日本の樹・二本の杉
（白山神社／東吾妻町・伊勢の森／中之条町）》
2018-2022年　個人蔵

展示室5

～4/6
ホセ・ダヴィラ

木村武山
《孔雀》

7/19～8/31
新収蔵作品紹介②
石内都

石内都
《mother's #60》

展示室7 山種記念館

～4/6
礒部草丘と群馬の画家たち

海北友松
《平沙落雁図》
（新収蔵）

4/19～6/1
院展ゆかりの画家たち

6/3～7/6
時のうつろい

7/19～8/31
井上有一　東京大空襲

福田元子《木蓮》

9/13～10/26
生を見つめて

10/28～12/16
上州の山を描く

休館　4/7～4/18

休館　7/7～7/18

休館　9/1～9/12

休館　11/10～11/20

休館　12/1～12/5

設備更新工事のため休館　12/17～3/31

イベント／ワークショップ

こども+おとな+夏の美術館
7/19［土］～8/31［日］
会期中、さまざまな体験活動やワークショップを行います。

レクチャー／ギャラリートーク

ミュージアム・レクチャー
「響きあう絵画　宮城県美術館コレクション」展会期中、関連したテーマによる連続講演会等を予定しています。

サンデー・ギャラリートーク
毎月第2日曜日（4、7、1、2、3月を除く）　14：00～14：40
学芸員がコレクション展示作品について解説します。

＊この他、各展覧会の関連事業として記念講演会、学芸員による作品解説会等を予定しています。

こども・ファミリー向け事業

こどもアートツアー
4、5、6、9、10月の第3土曜日　14：00～15：00
幼児から小中学生までを対象に、ワークシートなどを使って楽しく作品を鑑賞します。親子での参加も歓迎します。
＊都合により中止となる場合があります。

ファミリータイム
開館中の毎月第2、4木曜日　9：30～12：00
小さなお子様連れが気兼ねなく展覧会鑑賞ができる親子優先時間帯です。

ボランティアによるイベント等

ボランティアによる作品解説
美術館ボランティアがコレクション展示について随時解説します。

ボランティアによる茶席
毎月第1土曜日（9、1、2、3月を除く）　11：00～　申込不要（定員30名）
参加費500円
館内の茶室にて、美術館ボランティアによる呈茶席を設けます。

学校との連携プログラム

学校団体の見学サポート、出張授業、教員対象研修などを行っています。
＊要申込

＊詳細についてはお問い合わせください。
＊記載内容については変更することがあります。

群馬県立近代美術館友の会

美術館を支援する団体です。入会すると以下の特典があります。
■「群馬県立近代美術館」と「群馬県立館林美術館」で開催される展覧会のうち、両館あわせて2回（半期会員は1回）を無料で、それ以外は半額で観覧できます。
■「高崎市美術館」、「高崎市タワー美術館」、「高崎市山田かまち美術館」を団体割引相当額で観覧できます。
■上記5館の展覧会や会員限定イベントなどの情報が定期的にお手元に届きます。
■賛助会員は、上記のほか近代美術館のレセプション招待や会報及び館内等での会員名紹介（希望者のみ）などの特典があります。

会員種類と年会費（有効期間は4月1日～翌年3月31日）
□一般会員（個人）2,500円　半期会員 1,000円（10/1～翌年3/31）
□学生会員（高校・大学・各種専修学校在学中の個人）1,000円
□家族会員（同居2人分）3,500円（3人以上は1人あたり1,000円追加）
□個人賛助会員　1口 10,000円　1口あたり会員証5枚
□法人賛助会員　1口 20,000円　1口あたり会員証10枚
※ミュージアムショップにて入会受付、会員証を発行しています。

利用案内

開館時間　9：30～17：00（入館は16：30まで）

休 館 日　月曜日（休日の場合はその翌日。8/12、11/25、12/8、12/15は開館）
展示替・メンテナンスのための休館日（カレンダーに記載）
施設改修工事等のための休館日（12/17～3/31）

観 覧 料　**企画展示**
展覧会によって異なります。なお、企画展示の料金でコレクション展示もご覧いただけます。
コレクション展示
一般300（240）円、大高生150（120）円
※（　）内は20名以上の団体割引料金
※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、群馬県民の日（10/28）に観覧される方は無料です。

割　　引　**「共通パスポート」**（一般4,300円）　県有施設に1年間フリーで入場できるパスポート
「ぐーちょきシニアパスポート」　平日のみ、県内在住65歳以上の方が利用できるパスポート（2割引）
※チケット窓口にて販売・発行しています。

施　　設　ミュージアムショップ、絵本コーナー「えほんの森」
レストラン「森のレストラン　ころむす」（Tel. 027-346-5500）
講堂、茶室（貸出可。詳細はお問い合わせください。）

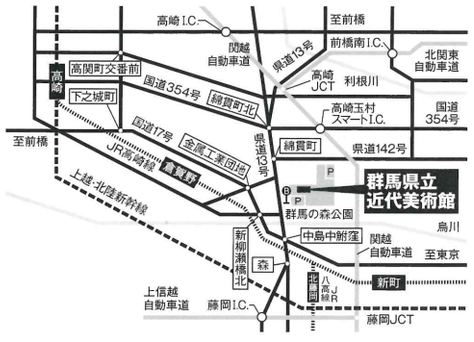
設　　備　車いす／多目的トイレ（1F）／ベビーカー／おむつ替台／授乳・救護室／コインロッカー／エレベーター

交通案内

電車・バス
JR高崎線・湘南新宿ライン・上野東京ラインまたは上越・北陸新幹線で高崎駅下車（新幹線は東京駅より約60分）。JR高崎駅東口より、市内循環バスぐるりん「群馬の森線」9系統（約38分）、10系統（約26分）、または「岩鼻線」15系統（約25分）で、いずれも「群馬の森」下車（200円）。

タクシー
JR高崎駅東口より約20分。JR倉賀野駅より約10分。JR新町駅より約10分。

車
関越自動車道「高崎玉村スマートI.C.」（ETCのみ）より高崎方面に向かい、県道13号を藤岡方面に約8分。上信越自動車道「藤岡I.C.」高崎方面出口より出て、県道13号を前橋方面に約10分。北関東自動車道「前橋南I.C.」より県道13号に出て、藤岡方面に約15分。県立公園「アイ・ディー・エー群馬の森」駐車場をご利用ください（無料）。



表紙：オシップ・ザッキン《破壊された都市》（部分）　当館蔵
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 X0396

群馬県立近代美術館
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA
〒370-1293 高崎市綿貫町992-1
Tel. 027-346-5560　Fax. 027-346-4064　https://mmag.pref.gunma.jp/

おもな展覧会の内容

■企画展示 ■公募展 ■特別展示

20世紀イタリアの巨匠
マリノ・マリーニ　新収蔵の版画作品を中心に

2025年4月19日［土］―6月8日［日］　展示室1
観覧料：一般600（480）円、大高生300（240）円　＊（　）内は20名以上の団体割引料金

イタリア中部の古都ピストイアに生まれたマリノ・マリーニ（1901-1980）は、古代ローマ以前に栄えたエトルリア文明が生み出した素朴で力強い造形に大きな影響を受けました。豊かな自然の恵みを女性像に表した「ポモナ」の連作や、人類の悲劇的な姿の象徴として暴れる馬に振り落とされそうになる騎手をかたどった騎馬像などにより、20世紀を代表する彫刻家の一人として評価されています。
当館では令和6年度、群馬県伊勢崎市出身の個人コレクターから、版画を中心とするマリーニ作品150点の寄贈を受けました。本展では、このコレクションの全貌を紹介します。最初期の繊細な銅版画から晩年の色鮮やかなリトグラフまで各年代にわたる充実した版画コレクションにより、彫刻とも密接に関わりながら多彩に展開したマリーニの豊かな表現をお楽しみください。

群馬青年ビエンナーレ2025

2025年7月19日［土］―8月24日［日］　展示室1
観覧料：一般500（400）円、大高生250（200）円　＊（　）内は20名以上の団体割引料金

若い世代を対象とした全国公募の展覧会です。本展の前身である「群馬青年美術展」は、群馬県立近代美術館の開館から間もない1976年にはじまりました。1991年に「群馬青年ビエンナーレ」と改称してから、今回で16回目の開催となります。ジャンルを問わず全国から応募された作品のうち、審査によって選ばれた入賞および入選作品を展示します。平面、立体、映像、インスタレーションなどさまざまな手法で自身の「今」と向き合い、表現の可能性を探る若手アーティストたちの作品をご覧ください。

響きあう絵画
宮城県美術館コレクション　カンディンスキー、高橋由一から具体まで

2025年9月13日［土］―11月9日［日］　展示室1
観覧料：一般900（720）円、大高生450（360）円　＊（　）内は20名以上の団体割引料金

1981年、仙台市に開館した宮城県美術館は、同館のコレクションの原点である高橋由一をはじめ、明治から昭和に至る充実した絵画作品を収蔵しています。中でもエッセイ「気まぐれ美術館」で知られる、画廊主で作家の洲之内徹が残した「洲之内コレクション」には、彼が決して手放さなかった伝説的な名品や、コレクターと作品との唯一無二の物語が含まれています。また、海外作家のコレクションでは、カンディンスキー、クレーらドイツ表現主義の画家たちの作品が、収蔵品の個性を豊かに形作っています。戦後の絵画では、一大潮流となった抽象画や、関西の前衛グループ「具体」の作品などが、熱気に満ちた激動の時代を浮かび上がらせます。宮城県美術館を代表する名品が、当館の展示室に勢ぞろいする、またとないチャンスが訪れます。

水野 暁　視覚の層 | 絵画の層（仮）

2025年9月13日［土］―12月16日［火］　展示室4、5
観覧料：一般300（240）円、大高生150（120）円　＊（　）内は20名以上の団体割引料金

水野暁（1974- ）は群馬県東吾妻町に生まれ、現在も同地を拠点に活動を続ける画家です。当館では2014年、開館40周年を記念するグループ展「1974年に生まれて」においてそれまでの代表作を展示し、大きな反響を呼びました。今回の個展では、それ以降の10年間に制作された大作を中心に、近年の水野の展開をお見せします。
水野は3年から4年をかけて対象と向き合い、季節の移り変わりや年月の経過を一枚の画面に凝縮させます。この2年間は、榛名湖アーティストレジデンスにおいて榛名湖の水面をモチーフとした150号の絵画を描き続けており、本展ではその未完の作品を初公開する予定です。焦点や解像度を変えて対象を見つめ続ける水野の視覚が絵具の層となって画面に積み重なり、写実を超えたリアルな存在として私たちの前に現れます。